

平成29年 第1回 市議会定例会

市長所信表明(要旨)

蕪崎市

本日ここに、平成29年第1回市議会定例会の開会にあたり、提出いたしました案件の概要説明に先立ち、市政を担当するに際しての私の所信と施策の基本的な考え方について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年末の12月17日、大村智名誉市民のご功績を末永く後生に伝えるための銅像が、大村先生をはじめ銅像制作者である彫刻家の津田裕子先生、女子美術大学関係者、また、ご寄付をいただいた多くの方々や市議会議員の皆様のご列席をいただく中、幸福の小径を象徴する芸術作品として、建立の運びとなりました。

設置後は、県内外から多くの方が銅像を訪れ、周囲の風景に溶け込む芸術的な作品に感動されております。

ご賛同いただいた皆様にあらためて厚く御礼申し上げます次第であります。

過日、韭崎工業高校スキー部が、関東高校大会のクロスカントリーにおいて山梨県勢として初優勝という快挙を成し遂げたことが、新年の明るい話題として伝えられたところであります。日頃から山岳で体を鍛え、冬にはクロスカントリーの練習に励んだとのことではありますが、大村先生も国体選手として出場されたクロスカントリーにおいての快挙に、本市の自然環境の中で育まれる若者たちの今後ますますの活躍に期待を寄せるものであります。

また今週の月曜日には、参議院文教科学委員会の皆様が本市を訪問され、大村智名誉市民と面談されました。意見交換の中で、大村先生はこのように述べられました。「地方を再生させるために重要なのは教育である。人口問題についても、教育の観点から考えてもらいたい。」

私はこのお考えを伺い、今後本市の歩む方向について、教育の重要性を改めて深く感じることができました。「まちづくりは人づくりから」であります。将来にわたり、乳幼児から高齢者にいたるまで、様々な角度から教育を充実させていきたいと考えているところです。

さて、我が国の経済状況につきまして、1月末に日銀が発表した経済、物価情勢は、オリンピック需要の本格化などをはじめ、政府による規制・制度改革といった成長戦略などによりデフレからの脱却が進み、潜在的な成長率は穏やかな上昇傾向をたどるとの展望が示されました。

県内においては、日銀甲府支店が「県内景気は、緩やかに回復しつつある」と山梨県金融経済概観において発表し、前向きな景気判断を示したところであります。

本市におきましても、国が行う施策の方向性につながる、日本経済全体の先行

きについて、注視してまいります。

以下、明年度の施策の展開方策につきまして、主要事業の動向、補正予算を含めその主な内容をご説明申し上げます。

始めに、子育て支援の充実についてであります。

子どもたちの成長に合わせ継続的に支援を行うため、子育て支援センター「にらちび」での活動に加え、当事者目線での相談支援や情報提供により、子育て支援施設や事業等への円滑な利用につなげ、妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して、総合的相談支援を提供するための「葦崎すくすく子育て相談センター」の開設に向け、準備を進めてまいります。

次に子育て環境の整備についてであります。

すずらん保育園と同様に甘利山の木材を使用した、園児にやさしい温もりのある再編第2保育園は、藤井公民館との公共施設の集約化による複合施設として公共施設最適化事業債など有利な財源を確保し、文化ホール駐車場などの周辺環境との利便性にも配慮して、平成30年4月の開園を目指してまいります。

また、現在進めております市立保育園の民営化につきましては、昨日の選定委員会において、優先交渉事業者が選定されたところでありますので今後、詳細な条件等について協議し、事業者を決定してまいります。

次に、学校教育の充実についてであります。

甘利小学校の大規模改修事業につきましては現在、1階に給食室、2階にはIT設備を充実した図書館にパソコンルームを併設した学習メディアセンターの本年度末の竣工を予定しており、明年度は旧給食棟の解体と校舎の本格的な改修に着手し、平成30年度の完成を目指してまいります。

葦崎北東小学校のスクールバスにつきましては、明年度新たな車両への入れ替えを行い、児童が安心して快適に通学できる環境を整備いたします。

また、子どもが健やかに成長するための環境や教育を受ける機会等について課題や困難を抱えている現状を踏まえ、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのないよう生活困窮世帯の子どもに対して、学習に必要な環境整備とその機会均等を図るため、明年度は中学生を対象に「子どもの学習支援」を実施してまいります。

次に、健康な暮らしを守る保健医療の充実についてであります。

生活習慣病を中心とした疾病の予防、合併症予防を含む重症化予防、介護予防、後発薬品の使用や適切な受診行動を促すため、本年度その基礎となる国保医療費の分析を国保健康寿命サポート事業として行いました。

明年度は分析データをベースに本市の疾病状況に特化したデータヘルス計画を策定し、課題に対しての適切な個別指導や保健事業を実施し、被保険者の皆様の

更なる健康寿命の延伸と医療費の適正化を図ってまいります。

次に高齢者福祉の充実についてであります。

明年度より開始される介護予防・日常生活支援総合事業では住民主体の自主活動である「お助け隊」による生活援助サービス、身近な地区単位で定期的な交流の場を設ける閉じこもり予防事業やリハビリテーション専門員を派遣して住民主体の運動活動をサポートする地域リハ活動支援事業、更には包括的支援事業の実施により地域の高齢者誰もが参加できる介護予防体制や住み慣れた地域で高齢者が自分らしい生活を維持出来る支援体制づくりに努めてまいります。

次に市立病院についてであります。

診療情報の一元化と待ち時間の短縮化を目的とした電子カルテの導入が本格稼働し、更なる患者サービスの向上を図るべく、明年度は病院機能評価を受けると共に急性期から在宅医療へ繋ぐ地域包括ケア病床を新設し在宅復帰に向けた支援を行い、地域に愛され信頼される病院づくりに努めてまいります。

次に安全・安心に生活できる地域体制の構築についてであります。

消防・救急体制の充実につきましては明年度、清哲分団の消防ポンプ自動車の更新を行い、消防力の強化を図ってまいります。

防犯対策につきましては、犯罪発生の抑止を図るため引き続き、防犯灯のLED化を推進してまいります。

防災体制の強化につきましては、国の電波法の通信規格により、平成34年11月末に現行のアナログ方式からデジタル方式へ移行するにあたり、庁舎内遠隔操作、放送聞き直し機能、災害対策本部と避難所との双方向通信や庁内行政防災無線室の1階から3階への移設などの機能強化を含め、明年度は実施設計を行います。

次に公共交通の充実についてであります。

市民バス路線の見直しや利便性の向上につきましては明年度、調査検討を行いその改善に努めるところでありますが、中学生以下の市民バス利用料金につきましては、1回100円としていつでも通学的手段として利用して頂けるように公共交通会議に諮り、4月からの実施を予定しております。

次に、農林業生産基盤の整備についてであります。

現在、市内全域においてそれぞれの地域の特性に合った区画整理、道路及び水路整備を総合的に実施しているところでありますが、農業生産の効率化と農家の経営安定化を図るため引き続き各種事業に取り組み、農業環境の改善に努めてまいります。

明年度は市内のため池耐震調査結果に基づき、営農に支障をきたすだけでなく、

決壊時の人命被害を防ぐため、沢村堤、新溜池の整備を県営農村地域防災減災事業として実施してまいります。

次に道路等の整備についてであります。

主要地方道葦崎昇仙峡線につきましては、用地の買収状況により順次、歩道と車道の施工及び舗装工事を進めていくと伺っております。

次に市道龍岡 18 号線に架かる堀切橋につきましては、上部架設工事に着手し、引き続き通行の安全性向上を図ってまいります。

また、市道藤井 6 号線、穴山 22 号線、旭 58 号線、神山 2 号線につきましては、地域住民の利便性向上や小中学生が安心して通学出来る歩道設置など引き続き交通安全の確保に努めてまいります。

次に、まちの賑わいをつくりだす商工業の振興についてであります。

先ず、「中小企業・小規模事業者振興基本条例」に基づく支援策として、明年度新たに、従業員が業務上必要な資格を取得する際の経費の一部を、商工会を通じて助成してまいります。

また、社会情勢や市民ニーズの把握に努めながら、引き続きまちなかに賑わいを創出する新たな計画として、第 3 期まちなか活性化計画の策定を進めてまいります。

次に、企業誘致の促進についてであります。

上ノ山・穂坂地区工業団地では去る 2 月 13 日、多くの関係者立ち合いのもと株式会社テージーケーが地鎮祭を執り行いました。平成 30 年 4 月からの操業予定と伺っておりますので、市内雇用の拡大や地域経済の活性化など、様々な分野における波及効果に、大きな期待を寄せる次第であります。

また、工業団地第 2 期造成事業につきましては、地権者説明会を経て、現在は、関係地区説明会を順次開催しているところであります。

引き続き、地域住民や地権者への丁寧な説明に意を注ぐ中、明年度には周辺道路の整備を行い、可能な限り早期での造成工事着手に向けた取組を進めてまいります。

次に、魅力ある観光施策の充実についてであります。

市内の至るところから美しい富士山を望むことができる本市の特性を活かし、市内ビューポイントの選定を進めているところでありますが、明年度においては、「葦崎から望む四季折々の富士山フォトコンテスト」を開催し、県内外から訪れるカメラマン等の新たな視点により、全国に誇りうる葦崎版「富嶽 36 景」を定めてまいります。

次に健康ウォーク推進事業についてであります。

春は大村先生が称賛する郷土の展望を楽しみながら、春の息吹を感じる武田の里と新府桃源郷コース、秋は本市自慢の360度の山岳展望と秋の味覚を楽しんでいただく穂坂ぶどう郷コースといずれも自然を満喫し、地元の特産品や史跡・歴史に対する理解を深めていただき、健康増進や体力保持を目的に誰もが楽しく参加できるイベントとして多くの皆様のご参加をお待ちしております。

次に、地方創生事業についてであります。

先ず、首都圏から若者が移住し地域と共にまちおこしに関わり、定住定着を図るといふ人口対策や地域を変える新しい力として期待されている地域おこし協力隊推進事業であります。

明年度は、多くの観光客が訪れている大村美術館を中心に武田家ゆかりの史跡やわに塚のサクラ、幸福の小径などの観光スポットを周遊コースとして結び付け、本市の魅力を全国に発信しながら、地域活動の一翼を担うための協力隊員を武田八幡宮に配置し、観光振興の充実を図ってまいりたいと考えております。

また、平成22年より7年間、サッカーのまちづくりプロジェクト事業として、サッカー文化を本市の特色として捉え、「サッカーのまちにらさき」の歴史・文化の継承及び競技力の向上を図り、魅力あるまちづくりと将来を担う人材育成に取り組んでまいりました。

明年度よりこれまでの活動を蕪崎市サッカー協会に継承していただくため、協力隊員を配置して本市独自のスポーツ文化の醸成と活性化を図ってまいります。

更に、移住定住対策事業として、世界的なトレイルランナーである山本健一先生のご協力をいただきながら、来月には東京駅八重洲口前の移住ガーデンにおいて山の魅力に惹かれる移住定住希望者を対象としたセミナーの開催を予定しております。

山本先生によるふるさと蕪崎の魅力発信や山岳観光事業を展開するため、本市の山をテーマとしたトークセッションなど、交流人口の増加にもつながるイベントの演出に努めてまいります。

また、大村先生には、ふるさと蕪崎の素晴らしさを折に触れて伝えていただいておりますが、ノーベル賞受賞を契機に多くの方々がふるさとへの思いを募らせており、この度、首都圏で活躍されている本市にゆかりのある方々と市民がともに手を携え、ふるさとのさらなる発展に寄与することを目的とした「首都圏蕪崎会」の設立に向け、山梨県人会連合会をはじめとする関係各位のご尽力を頂きながら、準備を進めているところであります。

次に、文化・芸術の振興についてであります。

大村美術館開館10周年記念事業として、収蔵庫の増築、記念図録の発行、大村先生記念室の開設に併せた記念セレモニー及び企画展の開催をこの秋に予定し

ております。

大村先生記念室につきましては、ノーベル賞メダルをはじめとする科学者としてのご功績や秘蔵の作品など美術愛好家としての先生の魅力を存分に展示し、広く紹介する予定であります。

加えて、受付・物販スペースを改修し来館者が快適にご利用できる施設整備を図ってまいります。

また、まちなか美術館構想事業として行う幸福の小径への彫刻作品の設置につきましては、国内で活躍する優れた作家や将来を期待される若手作家による9作品を平成30年4月に披露するための準備を進めてまいります。

明年度はまちなか絵画貸出事業として市商工会に加入している会員に美術館所蔵作品を貸し出し、芸術文化の振興発展及び新たなまちづくりの一助として、賑わいの創出に期待するものであります。

次に、効率的・効果的な行財政運営についてであります。

災害時における地域防災拠点としての機能強化を図るため、明年度庁舎1階エントランスの天井耐震化及び強化ガラスへの更新など来庁者が安心して利用できる庁舎の環境整備に努めてまいります。

これら施策の具体化のため、今議会におきまして、ご審議をお願いいたします案件は、これまで申し述べましたことを踏まえ、

予算案件	24件
条例案件	8件
その他案件	3件

であります。

以下、平成29年度当初予算案の概要について、ご説明申し上げます。

明年度の予算編成にあたりましては、厳しい財政状況下ではありますが、「第6次長期総合計画」や「蕪崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に重点をおくなかで、費用対効果の高い事業を優先的に採択し、積極的な予算編成を行ったところであります。

その結果、一般会計当初予算額は、前年度当初予算に比べ、2.3%の増であり、本市の過去最高予算規模となります、141億4,500万円といたしました。

このうち、歳入についてであります。国の明年度の経済見通しでは、名目成長率は2.5%、実質成長率は1.5%程度の伸びを見込んでおり、本市においても、市税を対前年5.2%増となる46億999万5千円を計上するとともに、扶助費や投資的経費に対する補助の増により、国庫支出金を4.7%、県支出金を12.4%、投資的経費等の財源となる市債を2.5%の増としたところであります。

また、地方財政計画において、対前年2.2%減となった地方交付税は、本年度と明年度の法人市民税の収入見込みにより、対前年5.1%減の25億8,4

00万円、地方交付税の振替財源である臨時財政対策債は、10%減の5億8,300万円を計上したところであります。

次に、歳出につきましては、退職手当の増と職員数の減少等により、人件費を対前年0.6%減の18億7,122万7千円、峡北広域行政事務組合負担金等の減により補助費等を9.9%減の18億4,584万6千円とする一方、ふるさと応援寄付金に対する返礼品購入等の増により物件費を4.5%増の25億1,917万7千円、障害者自立支援給付費等負担事業費等の増により、扶助費を4.4%増の22億7,335万9千円、平成25年借入の臨時財政対策債の元金償還開始等に伴い、公債費を2%増の14億9,588万8千円といたしました。

また、普通建設事業費は、再編保育園・藤井公民館整備事業費及び甘利小学校大規模改修事業費、堀切橋拡幅整備事業費等の継続事業並びに上ノ山・穂坂地区工業団地周辺の市道、農道整備に着手することなどから、対前年比14%増の22億3,855万円を計上しております。

なお、特別会計への繰出金につきましては、後期高齢者医療特別会計や下水道事業特別会計等への繰出金の増により、対前年比1.1%増の16億76万8千円といたしましたところであります。

次に、特別会計であります。

国民健康保険特別会計ほか12会計において、0.5%増の総額78億3,570万7千円の予算を計上いたしております。

また、企業会計につきましては、市立病院事業会計並びに水道事業会計を合わせて、39億9,413万9千円を見込んでおります。

続きまして、平成28年度補正予算案についてであります。

一般会計につきましては、4億3,137万5千円を減額し、現計予算額は、139億6,873万2千円といたしております。

その主な内容につきましては、ご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、普通建設事業費等の確定見込みにより特定財源である国庫支出金を7,279万8千円、県支出金を4,287万4千円、市債を1億7,830万円減額補正する一方、ふるさと応援寄付金等の増加に伴い、寄附金を2,009万9千円増額補正いたしております。

次に、歳出予算についてであります。各種事業費の確定による精算並びに国庫支出金の交付決定額の減に伴う事業費の減額のほか、扶助費の給付見込み、国庫支出金の精算により一部事業につきまして増額補正いたしましたところであります。

この主なるものについてであります。障害者の生活支援サービスの利用増加に伴い障害者自立支援給付費等負担事業費に1,535万1千円、梨北農業協同組合穂坂果実部会の機器等購入経費の一部助成費用として、農業団体育成事業費に1,400万3千円を追加計上する一方、事業費の確定見込みにより、堀切橋拡幅整備事業費を8,698万4千円、県営経営体 育成基盤整備事業費を5,7

65万円、県営中山間地域総合整備事業費を5,400万円減額補正しております。

次に、特別会計、企業会計についてではありますが、いずれも各種事業費の確定、精算に伴う減額補正であり、主なるものは、国民健康保険特別会計、2,466万6千円、後期高齢者医療特別会計、1,215万8千円、簡易水道特別会計、5,200万円、下水道事業特別会計、2,686万9千円を減額するものであり、病院事業会計につきましても、2,217万2千円を減額するものであります。

なお、その他の案件につきましては、いずれもその末尾に提案理由を付記してありますので、よろしくご審議の上、ご議決あらんことをお願い申し上げます。

今後も、国、県の動向を見極めながら健全な財政運営に努め、新たなまちづくりに全力で取り組んでまいる所存でありますので、より一層のご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信といたします。

平成29年2月23日

葦崎市長 内藤 久夫